

日本語教授法 I					単位	4
授業コード	16800	科目ナンバリング	560A1-2000-x4	期間	2021年度 第1期～第2期	
担当者	青井 由佳					
授業形態	講義・演習					
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔	
対面授業はF または S, 遠隔授業は該当するものに ○ (複数可)						
●本授業の概要						
日本語を教えるとはどういうことか、何を、どうやって教えるのかを考える。初級の教科書の分析を通して、全体の流れをつかみ、大まかなコースデザインについて考える。						
●到達目標			知識・技能	思考・判断・ 表現力	主体性	
1	日本語を母語としない人の視線から、日本語を眺めることができるようになる。					
2	日本語教育における「初級」レベルの内容を知り、授業の組み立てができるようになる。					
3						
4						
5						
●成績評価の基準			1	2	3	4
1	テスト40%		1	2		
2	提出物等30%		1	2		
3	クラス内活動30%		1	2		
4						
5						
●実務経験のある教員による科目			実務あり			
●実務経験の授業への活用方法						
講師は外国人に対する日本語教育に現在も携わっている。その経験から、現場の実際と教えるために必要な知識やスキルを学生に伝え、理解を促す。						
●日本語以外の授業への活用方法						
●授業予定一覧						
1期						
1. はじめに～日本語教育の現状						
2. 世界の言語類型と日本語						
3. 音声①韻律的特徴						
4. 音声②音声的特徴						
5. 文字表記						
6. 語彙と意味						
7. 文法①品詞						
8. 文法②動詞のグループ						
9. 文法③助詞(1)に／で／へ						
10. 文法④助詞(2)は／が						
11. 文法⑤助詞(3)と／に						
12. コースデザイン①概要						
13. コースデザイン②実際						
14. 教科書分析						
15. 課分析・項目分析						

2期

1. 文法⑥アスペクト
2. 文法⑦ヴォイス(1)自他動詞
3. 文法⑧ヴォイス(2)受身
4. 文法⑨ヴォイス(3)使役
5. 文法⑩ムード
6. 外国語教授法
7. 初級授業の流れと進め方(1)概略
8. 初級授業の流れと進め方(2)実際
9. 教案作成の実際(1)準備
10. 教案作成の実際(2)実際
11. 教案作成の実際(3)振り返り
12. 教材教具
13. 模擬授業(1)グループ1
14. 模擬授業(2)グループ2
15. 後期まとめ

●試験

試験

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

（予習）特に文法項目に関しては他の関連授業で学んだ内容を振り返っておくこと。
（復習）毎回の授業のトピックなどに関して、理解や認識、興味関心を振り返る。

●必携書（教科書販売）

<必携書>

みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊 第2版, スリーエーネットワーク

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<参考書等>

授業にて指示する。

●オフィスアワー

質問等はメールでも受け付ける

●連絡先

alamakboleh@gmail.com（◎を@に変更のこと）

s8277@m.ndsu.ac.jp（◎を@に変更のこと）

●留意事項

積極的な授業参加を望む。

受講生の人数、特性などにより内容を変更する場合がある。

日本語教授法ⅠⅠ					単位	4
授業コード	16810	科目ナンバリング	560A1-3000-x4	期間	2021年度 第1期～第2期	
担当者	青井 由佳					
授業形態	講義・演習					
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔	
対面授業はF または S, 遠隔授業は該当するものに ○ (複数可)						
●本授業の概要						
『みんなの日本語 初級Ⅰ』の丁寧な分析をし、実際に授業を組み立て、模擬授業を行う。それを通して、初級前半項目への理解を深め、また「より良い授業とは何か」を考える。						
●到達目標			知識・技能	思考・判断・ 表現力	主体性	
1	初級前半項目の理解を深める。					
2	日本語の授業を組み立て、行うことができるようになる。					
3						
4						
5						
●成績評価の基準			1	2	3	4
1	発表：40%		1	2		
2	授業への参加姿勢：30%		1	2		
3	レポート：30%		1	2		
4						
5						
●実務経験のある教員による科目			実務あり			
●実務経験の授業への活用方法						
講師は外国人に対する日本語教育に現在も従事している。その経験から、実際に授業を組み立て、行う際に必要な知識やスキルを学生に伝え、よい授業ができる力を養成する。						
●日本語以外の授業への活用方法						
●授業予定一覧						
1 期						
1. オリエンテーション						
2. 教科書分析、項目分析の実際						
3. 授業の流れ、教案、教材教具						
4. 模擬授業準備 (2 課～6課)						
5. 模擬授業 1 - ①						
6. 模擬授業 1 - ②						
7. 模擬授業 1 - ③						
8. 模擬授業 1 - ④						
9. 模擬授業準備 (7課～13課)						
10. 模擬授業準備						
11. 模擬授業 2 - ①						
12. 模擬授業 2 - ②						
13. 模擬授業 2 - ③						
14. 模擬授業 2 - ④						
15. 前期のまとめ						

2期

1. オリエンテーション
2. 模擬授業準備 (14課～17課)
3. 模擬授業準備
4. 模擬授業 3-①
5. 模擬授業 3-②
6. 模擬授業 3-③
7. 模擬授業 3-④
8. 模擬授業準備 (18課～24課)
9. 模擬授業準備
10. 模擬授業 4-①
11. 模擬授業 4-②
12. 模擬授業 4-③
13. 模擬授業 4-④
14. 中級指導法
- 15.4技能別指導法

●試験

レポート

●試験のフィードバックの方法

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容

（予習）担当課はもちろん、他の課についても文法書等を多く読み、理解を深めておくこと。また、教案はよく練ること。
（復習）模擬授業を行った際の反省点、改良点すべき点を、次の教案にきちんと反映させられるようにしておくこと。

●必携書（教科書販売）

『初級日本語文法と教え方のポイント』,2005年, ISBN9784883193363,市川保子, スリーエーネットワーク

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

<必携書>

『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊 第2版』スリーエーネットワーク

<参考書等>

『はじめて日本語を教える人のための なっとく知っとく初級文型50』岡本牧子ほか・スリーエーネットワーク

『初級を教える人のための 日本語文法ハンドブック』松岡弘 編・スリーエーネットワーク

●オフィスアワー

質問は随時、電子メールで受け付ける。

●連絡先

alamakboleh@gmail.com (◎を@に変えてください)

s8277@m.ndsu.ac.jp (◎を@に変えてください)

●留意事項

積極的な授業参加を望む。

教案はできるだけ早めに作成し、講師のチェックを受けること。

受講生の人数、特性などにより内容や順序を入れ替えることがある。

日本語教授法III					単位	2			
授業コード	16830	科目ナンバリング	560A1-4000-x2	期間	2021年度 第1期～第2期				
担当者	尾崎 喜光								
授業形態	演習								
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔				
対面授業はFまたはS、遠隔授業は該当するものに○（複数可）									
●本授業の概要									
11月上旬に予定する「日本語教育実習」の教案を作成する。教案・パワーポイントの作成を進め、第1期の後半からは模擬授業を行う。改善すべき点を履修者全員でディスカッションし、よりよい教案をめざす。教壇に立つことに慣れるため、6月中旬頃に関連する授業を行う可能性もある。									
履修者は、日本語教育実習のための教案を作成するとともに、模擬授業においてそれを実践する力を修得する。									
●到達目標					知識・技能	思考・判断・表現力	主体性		
1	教案の作成ができる。				○		○		
2	作成した教案に基づき模擬授業ができる。					○	○		
3									
4									
5									
●成績評価の基準					1	2	3	4	5
1	授業への参加姿勢（出席）：20%				1	2			
2	教案の作成：60%				1				
3	模擬授業：20%					2			
4									
5									
●実務経験のある教員による科目									
●実務経験の授業への活用方法									
●日本語以外の授業への活用方法									
●授業予定一覧									
〔第1期〕									
第1回 ガイダンス、受講者の問題意識調査、授業の進め方の検討									
第2回 担当する課とペアについての検討									
第3回 実習で行いたいタスク（課）の検討（1）－案の提案－									
第4回 実習で行いたいタスク（課）の検討（2）－確定をめざす－									
第5回 前年度の実習場面をビデオで見ての検討									
第6回 関連する授業についての担当の検討									
第7回 関連する授業についての教案の検討									
第8回 関連する授業についての反省									
第9回 教案の原案の発表と検討（1）									
第10回 教案の原案の発表と検討（2）									
第11回 教案の原案の発表と検討（3）									
第12回 教案の改定版の発表と検討（1）									
第13回 教案の改定版の発表と検討（2）									
第14回 教案の改定版の発表と検討（3）									
第15回 全体の進捗状況の確認									

〔第2期〕
第1回 教案の確定直前版の発表と検討
第2回 模擬授業（1）
第3回 模擬授業（2）
第4回 教案の最終調整 → 実習
第5回 実習の反省会（1）
第6回 実習の反省会（2）
* 単位を満たす授業回数となっているため、第2期は第6回までとする。
●試験
各自が授業で提示する教案資料と模擬授業による。
●試験のフィードバックの方法
研究室にて個別に伝える。
●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容
授業での発表や模擬授業で受けたコメントを反映した教案の改定版作成が、その日の授業の復習および次回の授業の予習となる。平均すると1回あたりおおむね1時間。
●必携書（教科書販売）
中居順子他著『会話に挑戦！ 中級前期からの日本語ロールプレイ』（スリーエーネットワーク）定価2,400円＋税
●必携書・参考書等（教科書販売以外）
なし。
●オフィスアワー
第1期：木曜日7・8限。 第2期：金曜日7・8限。 いずれも事前予約の上来てほしい。
●連絡先
yozaki@post.ndsu.ac.jp
●留意事項
実習先（台湾・輔仁大学）では『会話に挑戦！ 中級前期からの日本語ロールプレイ』を用いて授業を行っていることから、教案もこれを用いて作成する。実習時における先方の授業進捗状況を考慮し、第1課～第4課の範囲から教案を作成する。実習は基本的に2人でペアを作って行う（授業の主担当にならない時間はアシスタントを担当）。そのため、教案の作成・分担はペアで相談しながら進める部分もある。
なお、日台の新型コロナウイルスの感染状況ならびに日台の出入国の制限状況によっては、岡山市内の日本語学校等で実習を行なうこともある。その場合であっても、同じ教科書を用いて実習を行なう。いずれで行うかについては、新学期のできるだけ早期に決定する。
遅刻時間の長短にかかわらず、遅刻2回で欠席1回とみなす。ただし、公共交通機関の遅延など本人の責めに帰ることができない理由による遅刻は、遅延証明書添付でその旨の申告があった場合に限り遅刻扱いにしない。
単位数を満たす授業回数となっているため、第2期は第6回までとする。

日本語教育実習					単位	1
授業コード	16840	科目ナンバリング	560A2-4000-x1	期間	2021年度 第1期～第2期	
担当者	尾崎 喜光					
授業形態	実習					
授業形式	対面		リアルタイム遠隔		オンデマンド遠隔	
対面授業はF または S, 遠隔授業は該当するものに ○ (複数可)						
●本授業の概要						
「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」ほか日本語教員養成課程での学びをふまえ、日本語教育の実習を行う。 履修者は、実際の日本語学習者を対象に、授業を実践する力を修得する。						
●到達目標			知識・技能	思考・判断・ 表現力	主体性	
1	実習ができる。		○	○	○	
2	実習の振り返りとしてのレポートが作成できる。			○	○	
3						
4						
5						
●成績評価の基準			1	2	3	4 5
1	実習：90%		1			
2	レポートの作成：10%			2		
3						
4						
5						
●実務経験のある教員による科目						
●実務経験の授業への活用方法						
●日本語以外の授業への活用方法						
●授業予定一覧						
11月上旬に6日間の滞在の予定で行う。						
●試験						
実習の内容と態度および振り返りのレポートによる。						
●試験のフィードバックの方法						
研究室にて個別に伝える。						
●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容						
実習先でも準備の時間が多少ある。その間にパワーポイントの資料をブラッシュアップすることがいわば実習の予習となる。おおむね2時間。現地では振り返りの反省会があるが、そこでの発言および帰国後に提出する振り返りのレポートがいわば復習となる。						

●必携書（教科書販売）

新たに購入すべきテキストはないが、教案作成にあたっては「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で用いたテキストを用いる。

●必携書・参考書等（教科書販売以外）

なし。

●オフィスアワー

金曜日7・8限および実習期間内で適宜。事前予約の上来てほしい。

●連絡先

yozaki@post.ndsu.ac.jp

●留意事項

実習は11月上旬に台湾の輔仁大学において行う。滞在期間は6日間の予定。

授業は基本的に2人でペアを組み、1章の中のタスクを分担しあって行う。授業は一人50分（1ペアで100分）を1回行う。授業の主担当にならない時間はアシスタントを担当する。

授業の様子は録画して将来の自分の授業に役立てるとともに、次年度以降の実習生の参考として残す。

実習終了後は、受け入れ担当教員を交えての反省会を現地で行う。

教材作成にあたっては、日本語教員養成課程研究室に設置してあるPC等も使える。

なお、日台の新型コロナウイルスの感染状況ならびに日台の出入国の制限状況によっては、岡山市内の日本語学校等で実習を行なうこともある。その場合であっても、同じ教科書を用いて実習を行なう。いずれで行うかについては、新学期のできるだけ早期に決定し、本実習の準備のための科目である「日本語教授法Ⅲ」において伝える。